

文化と行政

一国の文化は風土と歴史のなから生まれ、人々に受け継がれて独自の性格をもった価値の体系を形成する。優れた才能による創造活動の成果である芸術作品から日常の行動様式や価値観にいたるまで、きわめて幅広い領域で蓄積され、継承された記憶が伝統と呼ばれるものであり、その総体が文化にほかならない。したがって文化は、それを生み出した土地と密接に結びついている。それぞれの国がそれぞれ固有の文化を保持しているのは、そのためである。英語の culture (文化) という言葉が、もともと「土地を耕す」あるいは「(土地に) 住む」という意味のラテン語に由来するものであることも、決して偶然ではない。

かつて岡倉天心は、美術雑誌『国華』を創刊するにあたって、「美術は国の精華なり」と喝破した。もちろん、美術だけにかぎらず、文学、音楽、演劇等さまざまな分野において、優れた文化遺産はい

ずれも「国の精華」である。それらの貴重な文化遺産を受け継ぎ、活用して次代に伝えることは、国の重要な責務である。

現在、有形無形の文化遺産に対して指定や登録の制度があり、それが文化の継承に大きな役割を果たしているが、それでも十分に認知されない、あるいは忘れられた遺産は数多く残されているであろう。忘却はやがて消滅の危機を招く。「国の精華」である文化遺産にどのようなものがあるかを知ることが、文化の継承性を保証する第一歩である。例えばフランスでは、第二次大戦後に文化省が創られたとき、文化大臣のアンドレ・マルローがまず推進した方策の一つが、フランス国内の文化的、歴史的遺産の悉皆調査であった。一口に悉皆調査といっても、その内容は膨大な数にのぼる。そのため、フランスでは地区ごとに委員会を設け、調査の成果は順次公表して研究者や一般の利用者の便に供するというやり方が採

大原美術館長
高階秀爾



られた。この調査と、それにかかわる資料の整備は、現在も続けられている。

このような調査とならんで、実際の遺産そのものを保全し、活用することも当然重要である。美術についていうなら、絵画や彫刻作品は現実のモノであるだけに、常に劣化や損傷の危険にさらされている。その危険に対処するために美術館や博物館を中心とするさまざまな施設があるのだが、そのような文化的拠点の整備充実も、文化行政の重要な責務といってよいだろう。

かつてバブル経済が華やかだったころ、特に地方自治体において新しい美術館の建設が続き、多額の予算を使ったために、ハコモノ行政という批判を浴びたことがあった。だが、ハコモノ自体が悪いわけではない。問題は建物だけができて、中

身が十分にともなっていない点にある。例えば西欧諸国の類似の施設と比較した場合、各分野の専門スタッフの不足は決定的である。

現在独立行政法人化した国立博物館は三館、国立美術館は四館あるが、その職員数は七館全部を合わせて三五〇人ほどである。やがてそれに、現在建設中の国立新美術館と今秋九州に開設される国立博物館が加わるが、その二館を合わせても職員総数は四〇〇人程度であろう。この数は、六〇〇人の職員を擁するパリのオルセー美術館一館にも及ばない。パリにはさらに、その倍近くのスタッフを抱えるルーヴル美術館があり、ほぼ、三倍の規模のポンピドゥー芸術文化センターがある。文化を守るのに必要な人材の確保と、そのための各分野の専門家の養成とは、これからの日本の大きな課題であろう。

文化の問題を考える上で、第二の重要な視点は、多様性の確保である。文化は人間のさまざまな活動の広い領域にわたっており、これまでになかったような新しい試みも数多く生まれている。芸術の分

野だけを考えてみても、従来の絵画、彫刻、工芸、建築に加えて、写真、デザイン、ファッションなどのジャンルがあり、また、海外でも評判の高いマンガやアニメのようないわゆるサブ・カルチャーも重要な文化領域を形成している。その上、地域的な多様性も見逃せない。いずれにしても、画一化は文化を窒息させる。文化の振興を図るためには、それぞれのジャンルや地域に応じた多様な方策が必要であろう。

またその一方で、文化を享受する一般の人々の間でも、さまざまな新しい要請が生まれてきている。美術館を訪れるにしても、単に優れた作品を鑑賞するだけではなく、自ら創作活動に挑戦したり、生涯学習に場を求めたり、あるいは直接美術館活動に加わるなど、いわゆる参加型の観客が増大している。行政上の対応も、それぞれの場合に応じたきめの細かい方策が必要とされるのである。

そして最後に、創造性の確保が文化行政の基本的な理念であることも忘れてはならない。伝統の保持は、それが新しい創造性の飛躍につながるからこそ重要な

のである。ときには一見伝統に反逆するような大胆な試みのなかにも豊かな創造の萌芽があり、その成果がまた新しい伝統の形成をもたらすことは、歴史の教えるところである。芸術家たちによる多様な活動のなから、真に創造的に優れたものを認知し、顕彰し、必要に応じて直接支援をすることも、文化行政の大事な役割といえるべきであろう。

このように文化というものの特性を十分に引きわけて、その継承性、多様性、創造性を保証することが、文化行政の基本理念として望まれるところなのである。

